




報告番号

香大医博乙 第 283 号

学位論文審査の結果の要旨

平成 30 年 1 月 29 日

審査委員	主査	日下 隆 
	副主査	三木 崇範 
	副主査	西山 佳宏 
申請者	森 信博	
論文題目	Fetal facial expressions in small-for-gestational-age and growth-restricted fetuses	
学位論文の審査結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格 (該当するものを○で囲むこと。)	

〔 要 旨 〕

本研究に関する学位論文審査委員会は平成30年1月24日に行われた。

本研究は胎児神経行動に関する研究である。正常胎児(AGA胎児)、推定体重が胎児基準発育曲線の10パーセント未満の胎児(SGA胎児)、SGAであり臍帯動脈pulsatility index(UAPI)の異常高値を示す、または中大脳動脈pulsatility index(MCAPI)の異常低値を示すFetal growth restriction(FGR胎児)の3群の胎児表情の頻度を計測することによりSGA胎児とFGR胎児ではAGA胎児と比べ胎児表情の頻度が減少しないことを明らかにした。本研究で得られた成果は、胎児表情の評価は胎児の神経学的成熟を評価する一つの方法となり得ることを示唆した。FGR胎児では胎児表情の頻度が減少しなかったのはbrain-sparing-effectにより胎児脳血流が保たれているからと考えられ、また、SGA胎児、FGR胎児で胎児の脳機能、特にcentral dopamine systemの成熟と発達が促進されている可能性を示したもので、意義があり、本審査委員会では審査員全員一致して博士(医学)論文に相応しいものと判断し、合格とした。

審査においては、

1. 羊水量が正常のFGR胎児と羊水過少を伴うFGR胎児では重症度が違うため胎児表情の頻度に差が出てくるのではないか
2. 胎児表情以外のパラメーター、例えば手足の動きなどを加えるとよりよい胎児神経行動の評価法となるのではないか
3. MCAPIとUAPIの測定の方法について
4. 中大脳動脈以外の脳血流を用いたFGRの評価法の可能性について
5. central dopamine systemと他の例えばGABAなどとFGRの胎児神経行動との関連性
6. symmetrical SGA と asymmetrical SGA では胎児表情、胎児神経行動に違いがあるのか

など様々な質疑応答が行われたが、それぞれに対して適切な回答が得られた。博士(医学)の学位授与に値する十分な見識と能力を有することが認められた。

掲 載 誌 名	The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine 第 卷, 第 号		
(公表予定) 掲 載 年 月	2017 年 12月 online publication	出版社(等)名	Informa Healthcare

(備考) 要旨は、1, 500字以内にまとめてください。